

養護採点基準

4枚のうち1

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 (例)	採 点 上 の 注 意	配 点
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的な生活習慣に関わるもの。</li> <li>・ 学習、遊びのときの心身の状況。</li> <li>・ 習癖等に関わるもの。</li> <li>・ 身体的特徴に関わるもの。</li> <li>・ 運動器の状態に関わるもの。</li> </ul>	3つ書かれていればよい。 内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	各 2 × 3
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校生活管理指導表に基づいて生活管理や生活指導を行うため、家庭と連絡を取り、保護者や本人と話し合い、具体的な活動内容を確認する。</li> <li>・ 確認した内容に基づき、全教職員でAEDの適正使用も含めた共通理解を図り、管理・指導を行う。</li> <li>・ 学校生活管理指導表には、過度の運動制限にならないように、児童生徒等の学年ごとに運動の内容についての運動強度の指導区分が記載されており、児童生徒等の指導区分を十分に把握して、学校での心臓突然死の予防に努める。</li> <li>・ 学校生活の中で指導区分を利用するに当たって、児童生徒等の意欲、習熟度などにより、運動内容も総合的に判断されるべきであるが、判断が難しい場合は、保護者の了解を得た上で、主治医（専門医）などに連絡相談を行う。</li> </ul>	3つ書かれていればよい。 内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	各 4 × 3
2	<p>歯みがきの習慣の定着をさせるというねらいを明確にし、指導事項は簡略にする。</p>	問いを正しくとらえていれば、内容は異なってもよい。	各 8 × 4
	<p>給食後は歯みがきをするという具体的なめあてを持たせ、子供の実践に繋がるようにし、歯みがきの努力をしている子供に対しては、誉めるなど、子供一人一人に目を向けた指導を行うようにする。</p>		
	<p>歯のみがき方については、昼食後の指導の一環として洗口場を活用して実際的な指導を行うようにし、洗口場の清潔保持や、歯ブラシの保管などの環境づくりに配慮する。</p>		
	<p>短い時間の指導であっても、指導に必要な模型や掛け図、デジタルカメラやスライド、ビデオなどの視聴覚教材や校内放送を活用する。</p>		5 4
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童会・生徒会での自発的、自治的な活動を盛り上げ、子供が積極的に参加するように配慮する。</li> <li>・ 活動の内容は、子供の実態に即して、ねらいを明確にし、できるだけ精選して取り上げる。</li> <li>・ 発表会の中で、学校歯科医や外部講師が講話などを行う場合には、その内容について、事前に十分に打ち合わせを行い、学校の方針や子供の実態に合うように配慮する。</li> <li>・ 歯と口の健康週間の他にも、歯・口の健康づくりに関する行事や集会活動を行うことについて考慮する。</li> </ul>	2つ書かれていればよい。 内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	各 3 × 2

養護採点基準

4枚のうち2

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 (例)	採 点 上 の 注 意	配 点		
2	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツにより歯や口腔に外傷を受ける機会があり、場合によっては歯の喪失や顎骨の骨折あるいは軟組織の障害をもたらすことがあるが、マウスガードを装着することで、その危険性を低下させることができること。</li> <li>・マウスガードは熱によって変形するので、高熱環境は避けて保存すること。</li> <li>・マウスガードの使用後は、きれいに清掃して、ケースに保存すること。</li> <li>・むし歯や歯周病は、装着前に治療を完了しておくこと。</li> <li>・成長に合わせた調整が必要なため、定期的（1年に2回程度）にチェックを受けること。</li> <li>・使用頻度、発育途上にある年齢かどうかなどの要因で作り替える期間が異なること。</li> </ul>	4つ書かれていればよい。 内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	各 4 × 4	
3	<p>心は、いろいろな生活経験を通して、年齢に伴って発達すること。</p> <p>心と体には、密接な関係があること。</p> <p>不安や悩みへの対処には、大人や友達に相談する、仲間と遊ぶ、運動をするなどいろいろな方法があること。</p>	順序は問わない。 内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	各 4 × 3	1 2	
4	<p>(1) 副腎</p> <p>(2) 腎臓</p> <p>(3) 下大静脈</p> <p>(4) 尿管</p> <p>(5) 膀胱</p> <p>(6) 腎静脈</p> <p>(7) 腹大動脈</p>	<p>右副腎 もよい。</p> <p>右腎 もよい。</p> <p>大静脈 もよい。</p> <p>右尿管 もよい。</p> <p>左腎静脈 もよい。</p> <p>大動脈 もよい。</p>	各 2 × 7	1 4	

養護採点基準

4枚のうち3

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 (例)	採 点 上 の 注 意	配 点
5	<p>「学校生活管理指導表」及び「糖尿病患児の治療・緊急連絡法等の連絡表」を基に、学級担任等と共に保護者の面談を行い、学校で注射が必要な場合の場所と方法、発作時の対処方法、学校生活において配慮が必要な事項、同級生に説明する事項、当該生徒の病気のとらえ方等を確認し、確認した内容については全教職員に周知する。</p> <p>保護者の了解を得て、連絡表に記載されている医療機関の主治医と連携を図り、糖尿病の内容、病状、使用している薬剤等について、アドバイスを受ける。</p> <p>インスリン注射や血糖自己測定、低血糖の症状が現れたときにグルコース錠を補食できる環境を学校内の保健室などに作り、万一来備えて保健室に補食用のビスケットやジュースなどを用意しておく。</p> <p>1型糖尿病患児で、指導区分がE及び運動部活動への参加が可能であることから、運動をすることによって、病気に対する不安を解消し、精神的な充実感を得ることができるため、低血糖に注意しながら積極的に運動するように指導する。</p>	<p>問いを正しくとらえていれば、内容は異なっていてよい。</p>	<p>各 1 2 × 4  4 8</p>
6	<p>児童の意識状態、呼吸、心拍等及び症状を把握し、学級担任に、登校後からの児童の様子を確認する。</p> <p>児童に、不安がないように声を掛けながら、足を頭より高くして床に寝かせる。その際、嘔吐することを考え、顔を横向きにする。呼吸が苦しく仰向けに出来ない場合は、坐位を保持する。校長、教頭等に状況を報告し、指示を受ける。</p> <p>この児童は、アナフィラキシーショックが疑われるため、学校生活管理指導表の指示に基づいて、ただちにアドレナリン自己注射薬を使用する。本人が注射できない場合は、本人に代わって注射し、救急車を要請する。症状の経過を記録するとともに、学級担任から保護者へ状況を連絡してもらう。</p> <p>倒れた場所で当該児童を安静にさせ、立たせたり歩かせたりしない。救急車の到着を待ちながら、呼吸、心拍の状態を確認し、反応がなく呼吸がなければ一次救命処置を行う。</p>	<p>内容を正しくとらえていれば、表現は異なっていてよい。</p>	<p>3 0</p>

養護採点基準

4枚のうち4

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 (例)	採 点 上 の 注 意	配 点
	<p>ステップ2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保健室で得られる情報（健康観察、保健室利用状況、健康相談結果、当該生徒の生活時間や家庭での食事状況などの心身の健康に関する調査結果など）を整理する。</li> <li>学級担任や保護者から、友人関係や家庭の経済状況、教職員との関係、学習状況などの様々な情報を収集する。</li> <li>過換気症候群の病状について、関係機関等から情報収集を行う。</li> <li>収集・整理した情報を基に、専門性を生かしながら、課題の背景について分析を行う。</li> <li>校内委員会に参加し、疑問点等については必要に応じ発言し、確認する。</li> <li>生徒の健康課題の背景について組織で把握する際、養護教諭の専門性を生かし、的確に意見を述べる。</li> <li>分析をした結果を校内委員会でわかりやすく報告する。</li> </ul>	<p>3つ書かれていればよい。 内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。</p>	<p>各 4 × 3</p>
<p>7</p>	<p>ステップ3</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>発作時の対応や日頃の関わり等、健康面の支援については、専門性を生かし、具体的な手法や長期目標、短期目標について助言する。</li> <li>支援方針・支援方法を検討する際、必要に応じ、学級担任や校内委員会のまとめ役の教職員、学年主任等と協力する。</li> <li>健康面の支援について、関係機関と連携した対応が必要な場合は、学校医やスクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーと協力するなど、より生徒の実態に即した支援方針・支援方法が検討されるよう働きかける。</li> <li>健康課題を抱える生徒の心身の状態を把握し、必要に応じ、健康相談や保健指導を行う。</li> <li>保健室登校の場合は、養護教諭が中心となり、生徒の指導に当たることになるが、支援内容については、必ず、管理職、学年主任、学級担任、保護者と協議した上で決定し、組織的に支援する。</li> </ul>	<p>3つ書かれていればよい。 内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。</p>	<p>24</p> <p>各 4 × 3</p>